

## 09 JR春闘シリーズ ④

### 春闘制度改善要求

# 乗務員の労働時間短縮！ 乗務手当を時間・ 乗務キロ換算に戻せ！

本部は2009年春季生活闘争で、乗務員の労働時間短縮と乗務手当を従前の時間・乗務キロ換算に戻すことを求め申し入れを行いました。

現在、新幹線では時速270<sup>キ</sup>車両への統一、在来線では時速120<sup>キ</sup>車両が主流となり、列車の高速化が図られています。これによる列車の速達性の高まりは、そのまま乗務員の労働密度の高まりに直結しています。また、乗務員勤務制度の改悪によって「見なし労働時間」が廃止された結果、拘束時間は泊行路で24時間を超えるものが珍しくない状況になっています。乗務員には、高速運転に対する負担の増加と加えて、拘束時間の増加という二重の負担がのしかかっているのです。しかし、これらは何ら手当に反映されていません。

乗務手当は日当制であり、乗務したら1日に2,700円（運転士行路又は、車掌行路に乗務した場合）でしかないのです。乗務員は、負担の増加に心身共に疲れ果て、働きがいもなくしています。このままでは、安全を阻害するような事態に陥らないとも限りません。

私たちは、安全を担保しつつ、働きがいのある乗務員職場とするために、労働時間の短縮と乗務手当を従前の時間・乗務キロ換算に戻すことを強く要求します。

## 乗務員の労働条件の改善を求めて職場から闘おう！